降りていく人 マタイ 18:1-5	2026.11.8、丘の上、NO.785 春日部福音自由教会　山田豊

本日は、子供祝福式です。小さな子供、幼子の成長を願って祝福する祈りは、古今東西、どこでもささげられている祈りだと思います。教会では、日本文化の中にある子供の祝福を祈る七五三の日との関連で、毎年この時期に行われています。イエス様が幼子を祝福し、かつ、弟子たちや大人たちに大切なことを教えるために子供たちを大切にした出来事を、心に留めたいと思います。

その出来事は、マタイ 19：13-15 に記されています。イエスのもとに祝福を求めて子供たちが連れてこられたのに、弟子たちはそれを叱った、その弟子たちにイエスは意見をされて、祝福したという物語です。本日のテキストはその前の出来事です。19 章の出来事は、弟子たちは 18 章でイエスの語られたことを何も学んでいなかった、ということを暴露することにもなっています。

本日の個所の中心聖句は「自分を低くする人は幸いこそが、偉い人である」ということです。以前詩篇 113 篇から「どこまでも低くなる」という題で、お話をいたしました。今の時代、皆の先頭に立っていく人、いわば高いところに立とうという人はあまりいないかもしれません。大きな責任を負ったり、指導者としてリスクを冒したくない、という心理が働いているのではないでしょうか。といっても、本当に自分を低くする、他の人に仕えようという人も少ないのではないでしょうか。形の上で、役職上そのような立場でも、心から人に仕え、実際にそれを行うことはなかなか難しいことです。

しかしイエス様は、どこまでも低くなった方であり、降りて行った方でした。幼子を祝福したイエスは、身をかがめたことでしょう。イエスは神ご自身でありながら、その位を捨て私たちの所におりてこられたのです。そして、十字架にかかり、ご自分のいのちを捨て、罪ある私たちを新しいいのちを注いでくださったのです。アッシジのフランシスコは、まさにそのような生涯を送ったがゆえに、今年は帰天後 800 周年の記念の年として、彼の生涯を特に覚える時でした。

この世の中になぜ争いがあるのか、お互いの所に降りてこられないからです。他の人となぜ折り合いがつかないのか、自分の立場を捨てられず、低くなれないからです。今自分がドン底にいると感じていても、そこに降りてきてくださったイエスがあなたの傍らにいてくださるのです。

引用聖句

マタイ 19:3-15　そのとき、イエスに手を置いて祈っていただくために、子どもたちがみもとに連れて来られた。すると弟子たちは、連れて来た人たちを叱った。14 しかし、イエスは言われた。「子どもたちを来させなさい。わたしのところに来るのを邪魔してはいけません。天の御国はこのような者たちのものなのです。」15 そして手を子どもたちの上に置いてから、そこを去って行かれた。

詩篇 113:5-8　主は高い御位に座し 6 身を低くして天と地をご覧になる。7 主は弱い者をちりから起こし貧しい人をあくたから引き上げ 8 彼らを高貴な人々とともに御民の高貴な人々とともに座に着かせられる。

ルカ 2:11-12　今日ダビデの町で、あなたがたのために救い主がお生まれになりました。この方こそ主キリストです。12 あなたがたは、布にくるまって飼葉桶に寝ているみどりごを見つけます。それが、あなたがたのためのしるしです。」

ルカ 2:16　そして急いで行って、マリアとヨセフと、飼葉桶に寝ているみどりごを捜し当てた。

ピリピ 2:6-8　キリストは、神の御姿であられるのに、神としてのあり方を捨てられないとは考えず、7 ご自分を空しくして、しもべの姿をとり、人間と同じようになられました。人としての姿をもって現れ、8 自らを低くして、死にまで、それも十字架の死にまで従われました。